

調査概要

2030年に関する意識調査

—2030年の将来についての意識を検証する—

社団法人中部開発センター

1. アンケート調査の概要

(1) 調査の概要

日本全国から広くサンプルを抽出するため、インターネットを利用したアンケート調査を実施した。なお、調査対象は、日本国内の居住者とし、2007年5月11日から6月10日まで32日間実施した。

(2) 回答者の属性

有効回答者数は、4,001人。男女比では、女性の割合が50.6%、男性49.4%とほぼ半々であった。年齢別にみると、30代が30.8%と最も高く、次いで20代(24.0%)、40代(22.9%)の順であった。地域別では、中部圏が35.1%、首都圏が29.2%、近畿圏が19.9%であった。

図1 男女比

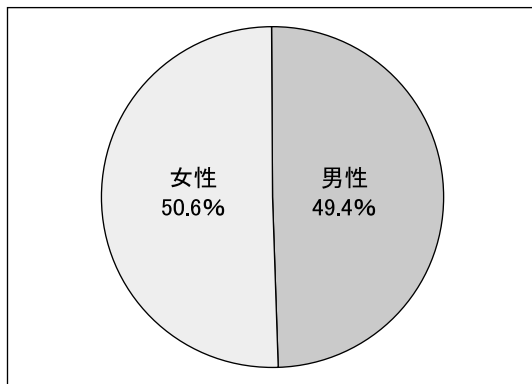


図2 年齢比

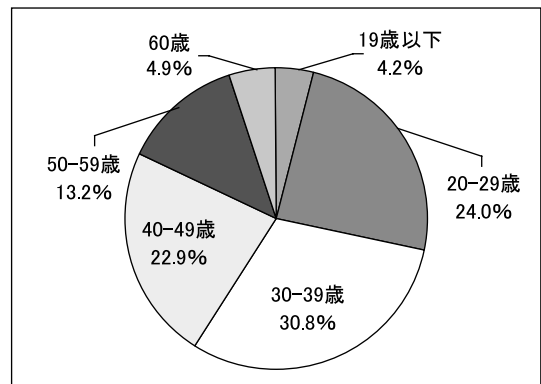
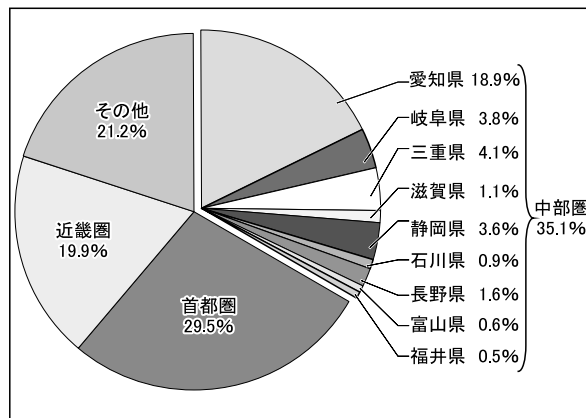


図3 地域比



2. アンケート調査の結果

【1】生活環境

問1	あなたが現在暮らしている圏域の生活環境はどうか良くなると思いますか。(5項目について順番を付けてください)
----	---

図4 今後望む生活環境の優先順位

()は1位5点～5位1点とした時の平均値

	1	2	3	4	5
中部圏	医療・福祉の充実 (4.04)	生活環境施設の充実 (3.95)	交通の利便性向上 (2.89)	景観の良い街並み (2.21)	文化・芸術の発展 (1.91)
首都圏	医療・福祉の充実 (3.96)	生活環境施設の充実 (3.94)	交通の利便性向上 (2.77)	景観の良い街並み (2.49)	文化・芸術の発展 (1.84)
近畿圏	生活環境施設の充実 (3.97)	医療・福祉の充実 (3.95)	交通の利便性向上 (2.83)	景観の良い街並み (2.36)	文化・芸術の発展 (1.89)
全国	医療・福祉の充実 (3.98)	生活環境施設の充実 (3.93)	交通の利便性向上 (2.88)	景観の良い街並み (2.33)	文化・芸術の発展 (1.88)

★ 将来は医療・福祉の充実、生活環境施設の充実を望む

- 近畿圏では生活環境施設の充実が1位となっているが、医療・福祉の充実と大差はない、他地域も1位と2位の差は小さく、3位以下を大きく離している。

問2	問1の選択肢以外に、良くなって欲しいものがあれば、自由に記入してください。
----	---------------------------------------

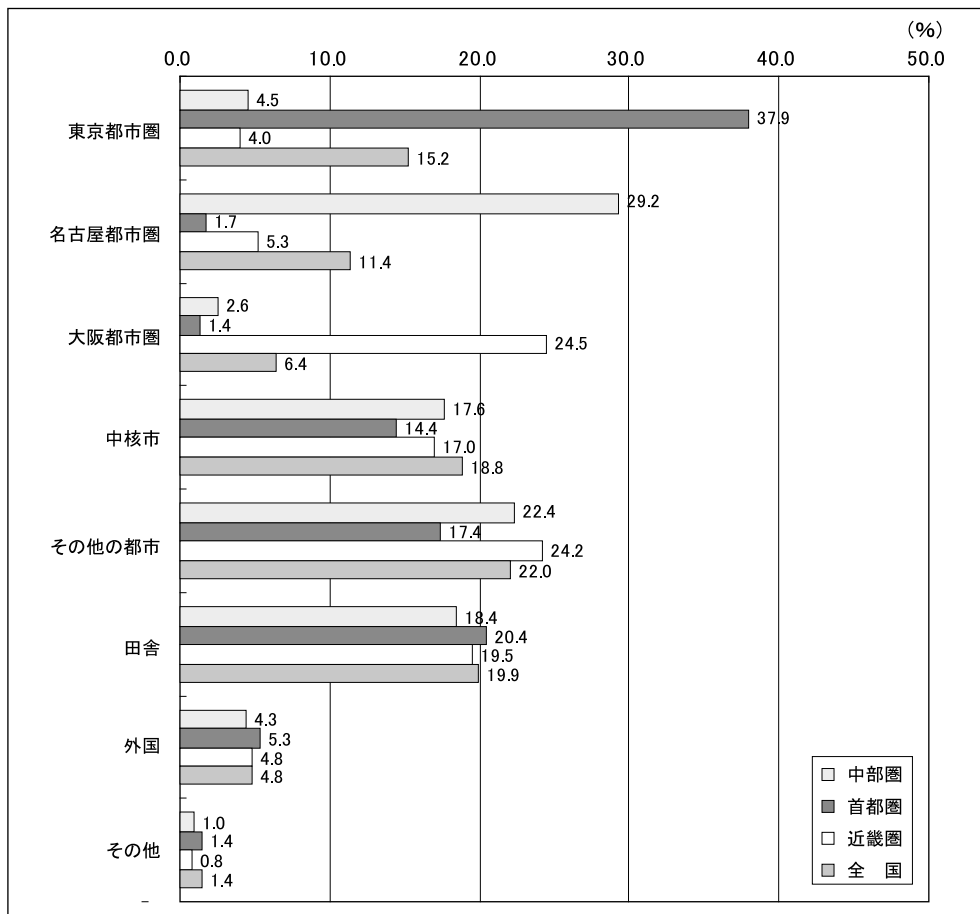
★ 自由記述 (抜粋)

少子高齢化が進む中、安全で安心して暮らせる環境を望む声が多い。具体的には、

- 環境問題への取組み
- 高齢者に優しいまちづくり
- 子育てしやすい環境、子どもを生みやすい環境 (保育所、教育環境、教育制度、児童手当、など)
- 治安の向上、安定 (犯罪のないまちなど)
- 地域コミュニティの向上 (人と人との繋がり、地域の治安・安全、発展、など)

問3 2030年に、あなたが住みたい理想の居住地域はどこでしょうか。

図5 2030年に住みたい居住地域



(注) 中核市：文化施設などそれなりに揃っている人口30万以上の都市、函館・青森・宇都宮・長野・金沢・岡山・宮崎など
 その他の都市：生活に便利な都市

★ 2030年に住みたい地域は、現在自分の住んでいる圏域

- 三大都市圏に住みたいと思う人は、現在も同じ圏域に住んでいる人が圧倒的に多い。
- 三大都市圏の順位では、東京都市圏、名古屋都市圏、大阪都市圏の順となった。

問4 2030年、老後に暮らすとしたら、どのような環境で暮らしたいと思いますか。

図6 2030年老後に暮らしたい場所

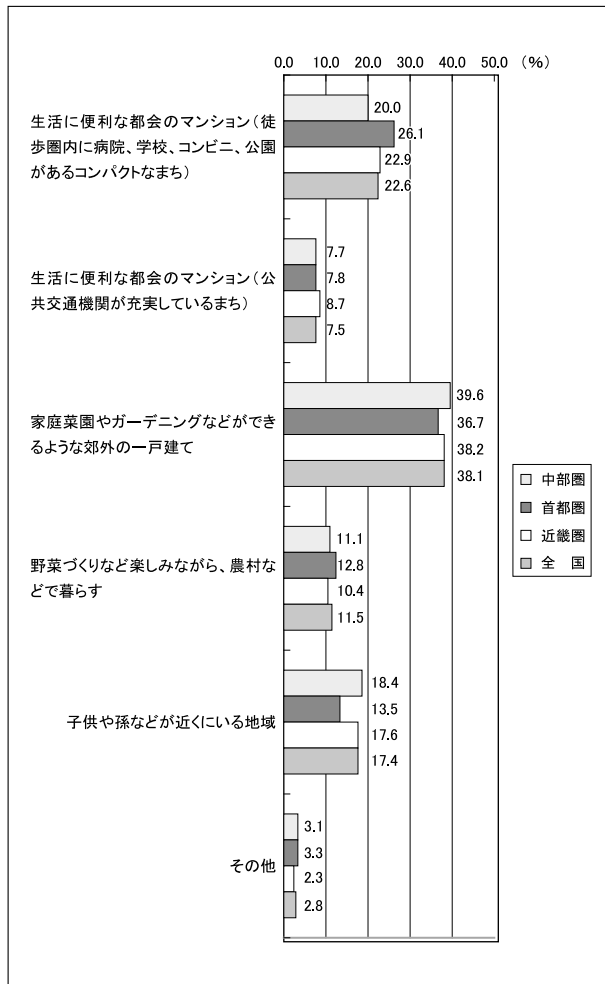
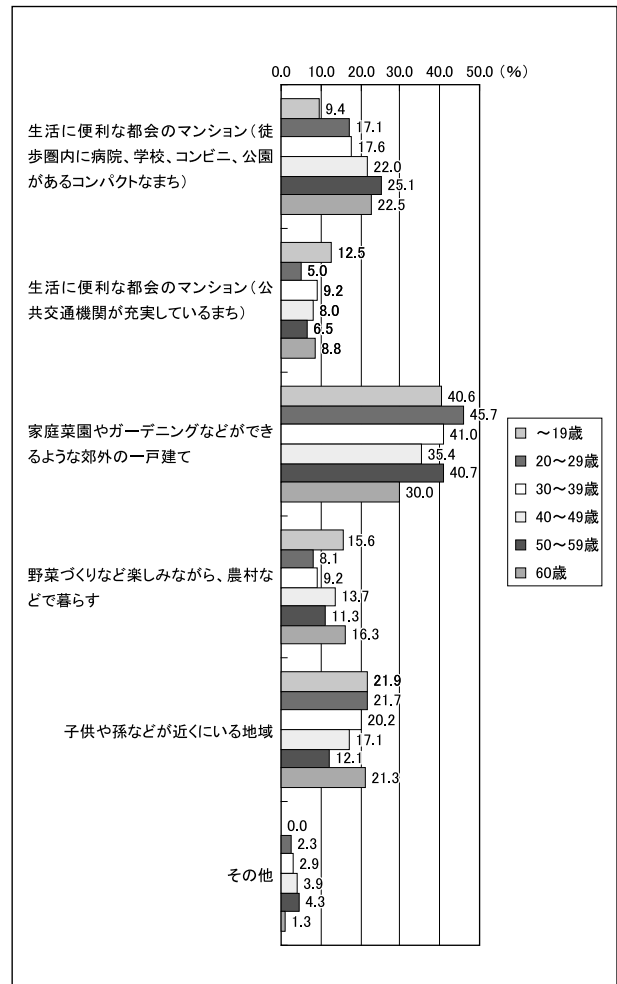


図7 中部圏の年齢別



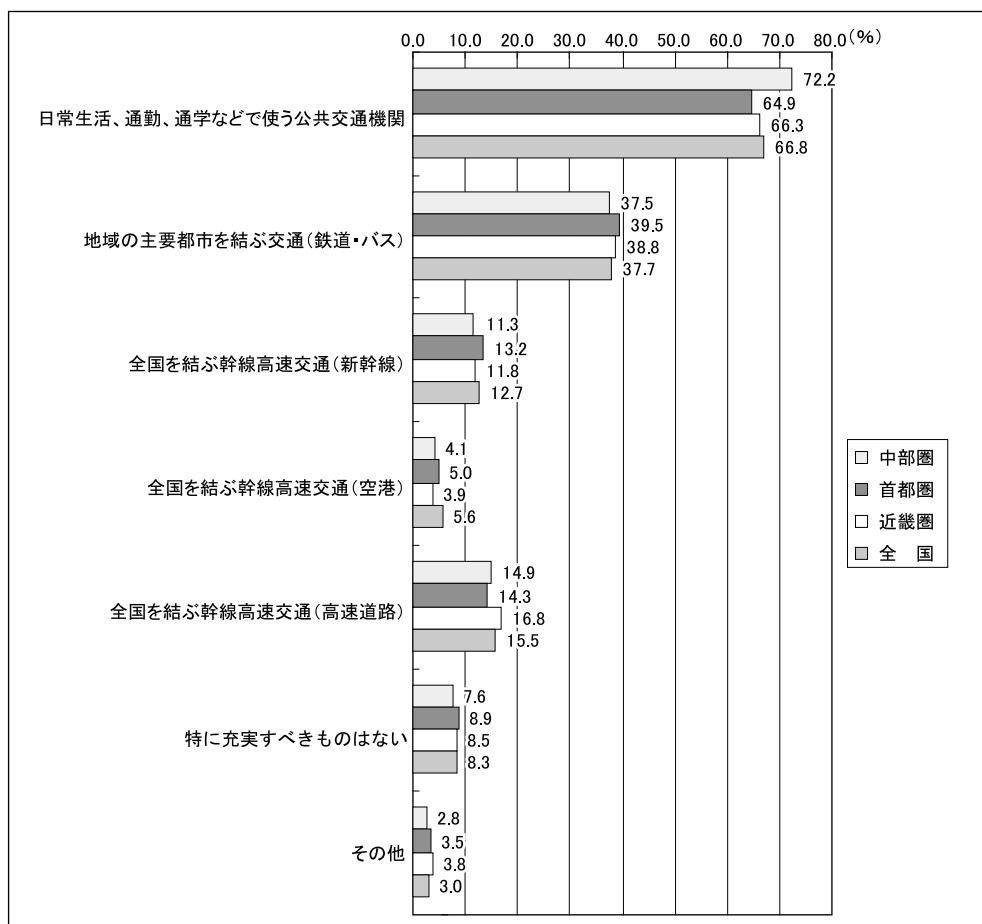
★ 意外に多い、老後に暮らしたい郊外の一戸建て

- 約4割の人が「老後に家庭菜園やガーデニングが出来る郊外の一戸建て」を希望していることがわかった。その中でも中部圏は39.6%と首都圏(36.7%)、近畿圏(36.2%)より高い割合となっている。
- 生活に便利な都会のマンションとしては、公共交通機関の充実より、徒歩圏内に何でも揃うコンパクトなまちを望んでいる。
- 2030年に老後を迎える中部圏の30~40代の傾向をみると、一戸建て志向が強い。
- その他としては、海の近く、海外、という意見が多かった。

問5

交通施設の整備について、2030年までに特に何を充実すべきだと思いますか。(複数回答可)

図8 交通施設の整備

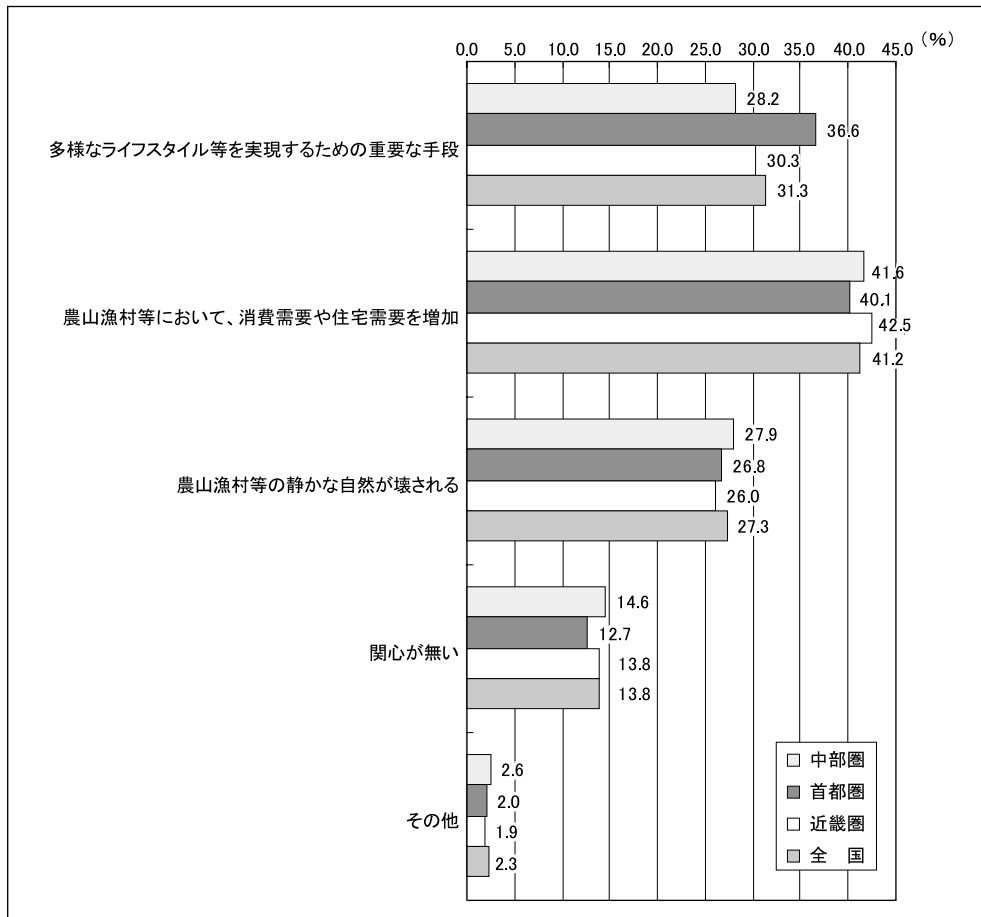


★ 交通施設の整備では、日常に関わる公共交通機関の充実を求める

- 約7割の人が「日常生活、通勤、通学などで使う公共交通機関」の充実を希望していることがわかった。その中でも、中部圏は72.2%と首都圏(64.9%)、近畿圏(66.3%)より高い割合になっている。これは現状の公共交通機関の整備状況を反映したものと推測される。
- 約4割の人が「地域の主要都市を結ぶ交通」として、鉄道・バスの充実をあげている。
- その他として、渋滞の緩和、自転車道の整備、という意見がみられた。

問6 「二地域居住」（都市と農山漁村等の二箇所に居住地を持つ）についてどう思いますか。（複数回答可）

図9 二地域居住について

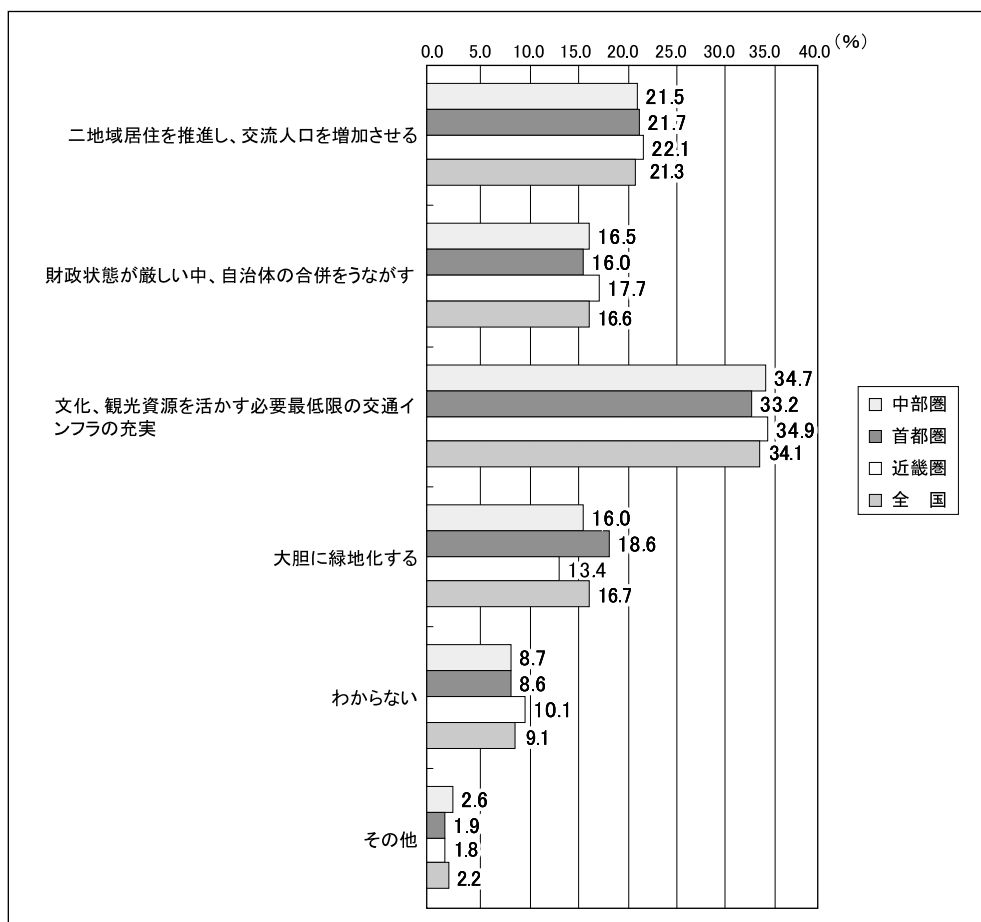


★ 「二地域居住」は農山漁村地域の活性化を促す

- 二地域居住については、4割強の人が「農山漁村において、消費需要や住宅需要が増加」正在と考えている。また、3割弱の人が「農山漁村等の自然が壊される」と考えている。
- 一方、多様なライフスタイル等を実現するための重要な手段として首都圏が36.6%と高く、次に近畿圏の30.3%、中部圏が28.2%と首都圏より8%も低い。
- その他として、お金が掛かるので、都会住民者のエゴ、との意見もある。

問7 2030年、中山間地はどうすべきだと思いますか。

図10 中山間地について

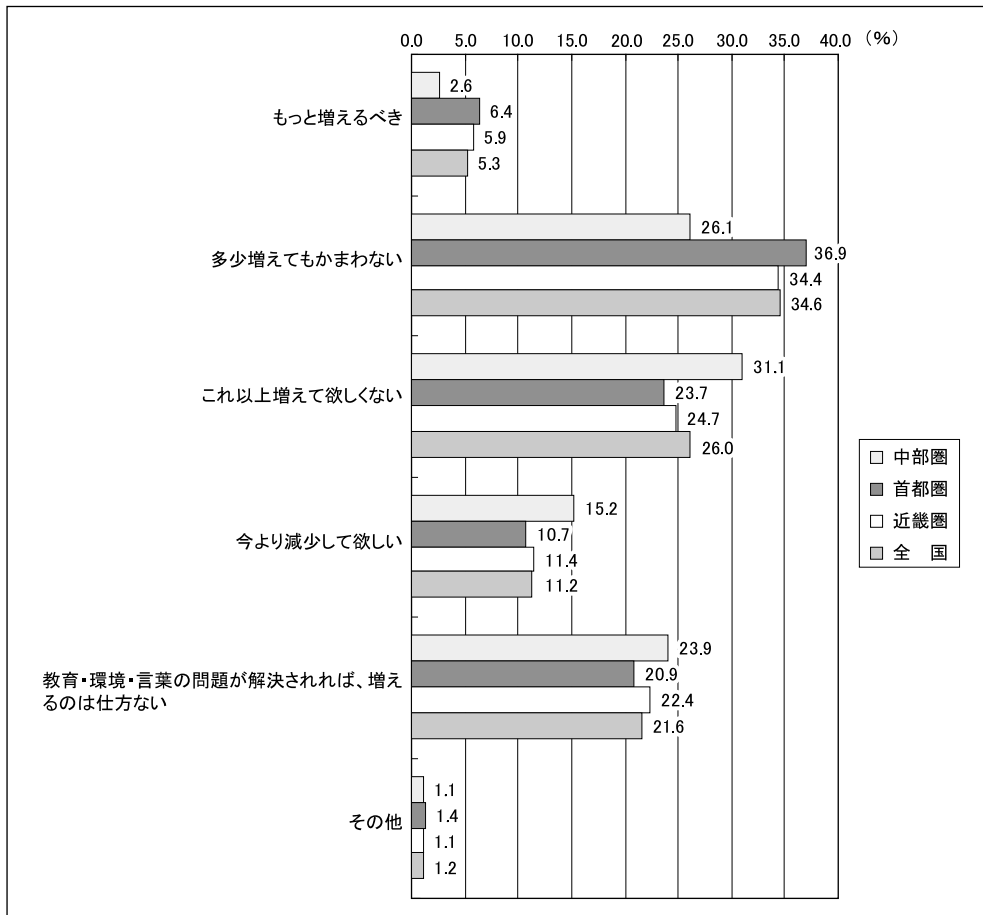


★ 中山間地は文化・観光資源を有効に活かすため、必要最低限の交通インフラを充実させる

- 3割強の人が、「文化・観光資源を活かす必要最低限の交通インフラの充実」を望んでいる。一方、大胆に緑地化すると回答したのは1割強。
- その他として、手を付けずに、自然のままにしておく、という意見がみられた。

問 8 2030年、居住する外国人の増加が見込まれます。あなたの地域では？

図11 居住外国人について

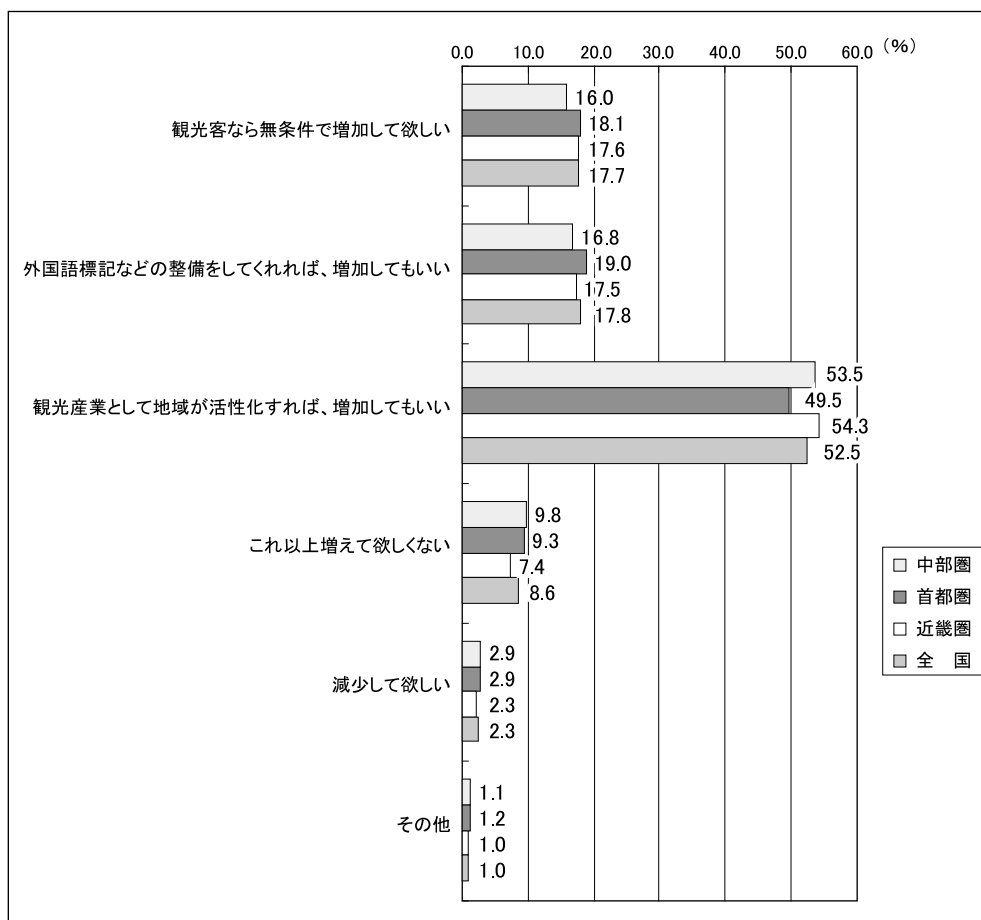


★ 外国人居住者が増えて欲しくない中部圏

- 外国人居住者が増えても良いと考える人は、首都圏で43.3%、近畿圏で40.3%と高いのに対し、中部圏は28.7%と低い。一方、現状維持、減少して欲しいと考える人は、中部圏が46.3%と高いのに対し、近畿圏は36.1%、首都圏は34.4%と低い。
- あらゆるインフラ（教育・環境・言葉などの問題）が解決されれば、増えるのは仕方ないと考えている人は、三大都市圏では横並びの約2割。
- その他として、「外国人居住者が増え、治安悪化に繋がる」との懸念を抱く、という意見がみられた。

問 9	2030年、外国人観光客の増加が見込まれます。あなたの地域では？
-----	----------------------------------

図12 外国人観光客について



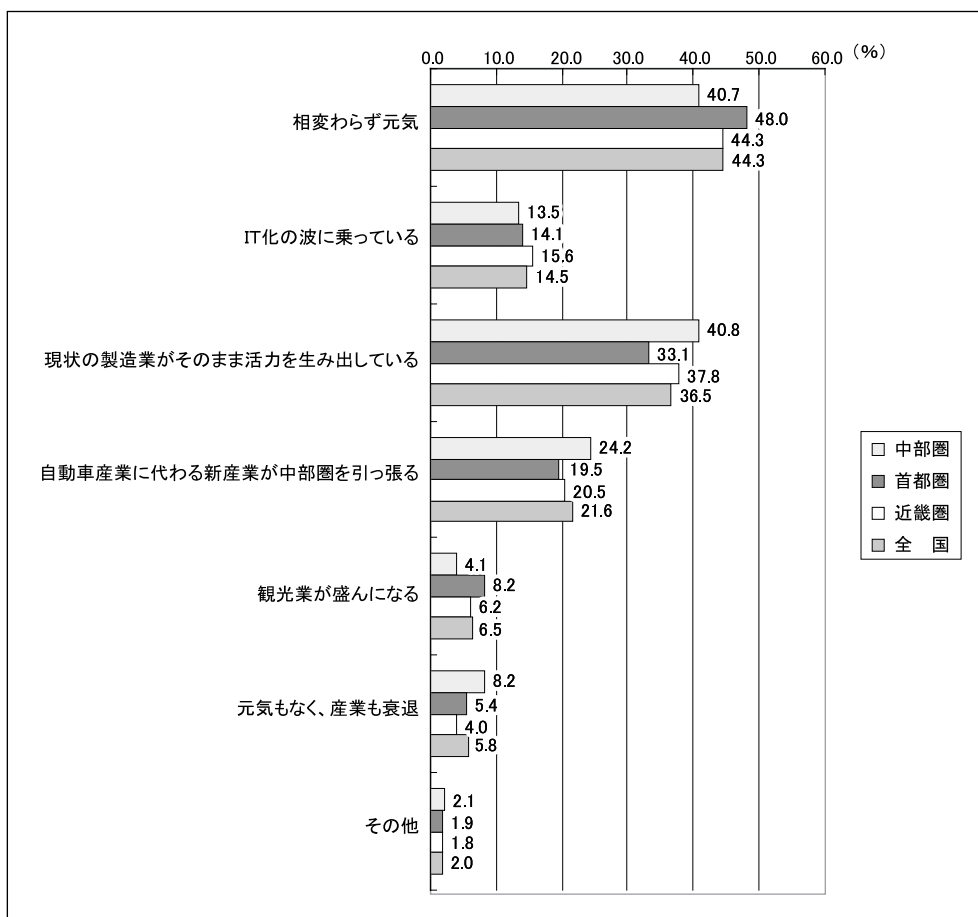
★ 観光産業活性化には外国人観光客の増加は必要

- 9割以上の方が、何らかの形で外国人観光客の増加に対しては肯定的である。居住者と観光客では見方が違う。

問10

今元気な名古屋がある中部圏は、2030年にどうなっていると思いますか。(複数回答可)

図13 2030年の中部圏について

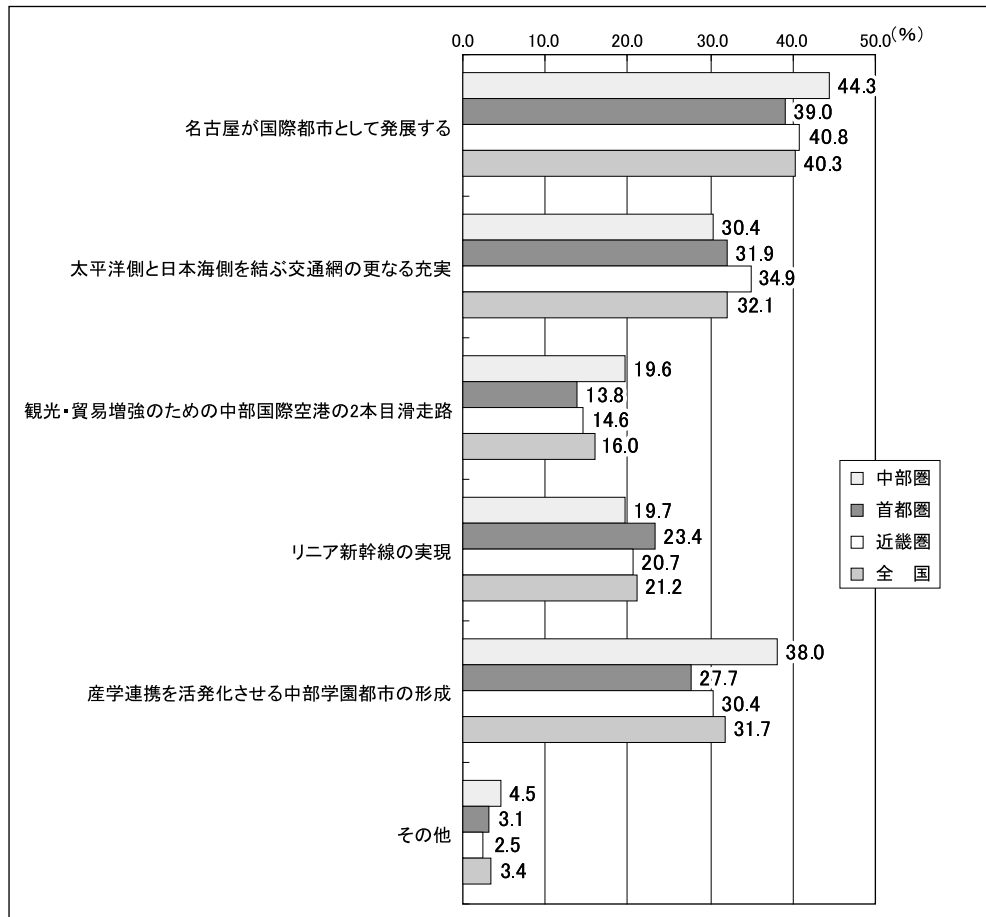


★ 2030年も相変わらず元気な中部圏

- 約4割強の人が、2030年の中部圏は、相変わらず元気であると考えている。特に、首都圏（46.0%）、近畿圏（44.3%）の人が中部圏（40.7%）の人より中部圏が元気であると考えている人の割合が高い。
- 自動車産業に代わる新産業が中部圏を引っ張ると回答したのは約2割。その中でも中部圏は24.2%と首都圏（19.5%）、近畿圏（20.5%）より高かった。
- その他として、首都機能が移転している、などの回答もあった。

問11	2030年、中部圏が更なる活気を帯びるためにはどうすればよいと思いますか。(複数回答可)
-----	--

図14 2030年に中部圏が活気を帯びるには

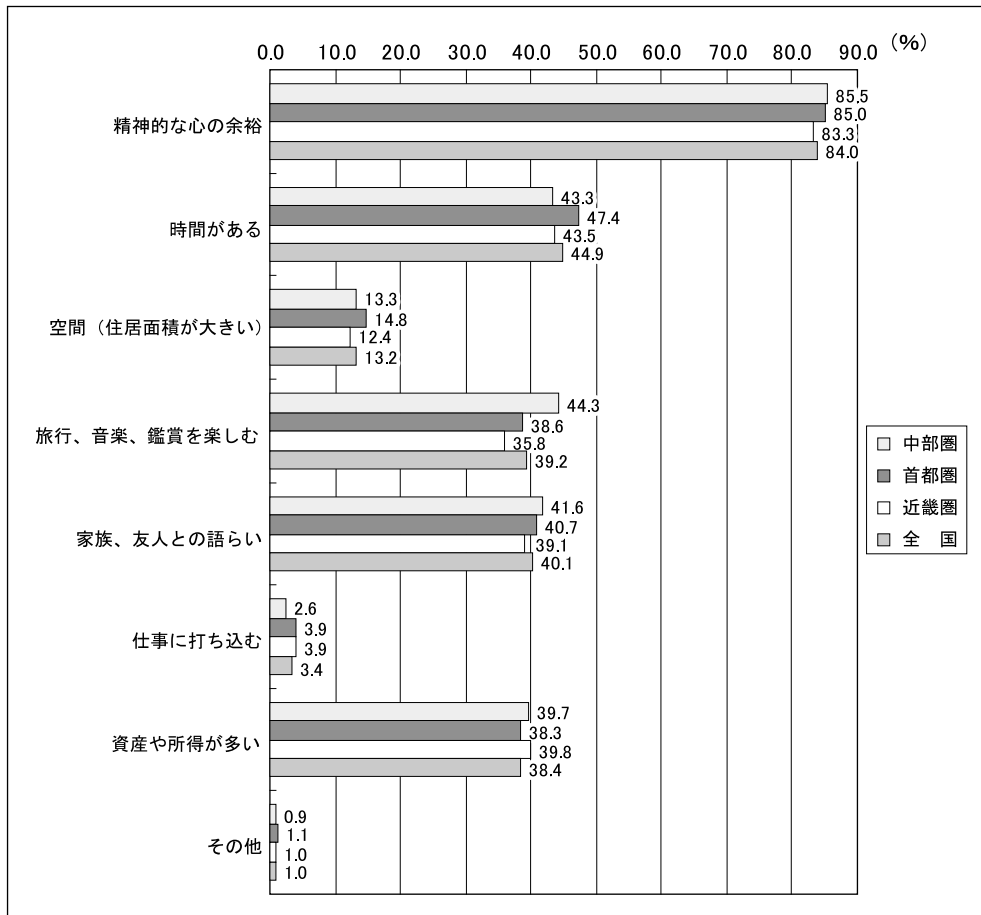


★ 2030年中部圏が活気を帯びるには、名古屋が国際都市になること

- 約4割の人が「名古屋が国際都市として発展する」ことが中部圏の活気を帯びると回答。その中でも中部圏は44.3%と首都圏（39.0%）、近畿圏（40.8%）より高い。
- 約3割の人が「太平洋と日本海の交通網の充実」と「産学連携を活発化させる中部学園都市の形成」を回答。その中で、中部圏では交通網の充実は三大都市圏で一番低く、中部学園都市の形成では一番高い割合となった。
- 中部国際空港の2本目滑走路とリニア新幹線は共に2割前後で、滑走路は中部圏で19.6%と首都圏（13.8%）、近畿圏（14.6%）より高いが、リニアは中部圏19.7%、首都圏（23.4%）、近畿圏（20.7%）と首都圏での期待が大きい。

問12	あなたにとって「ゆとり」とは何ですか。(複数回答可)
-----	----------------------------

図15 「ゆとり」について

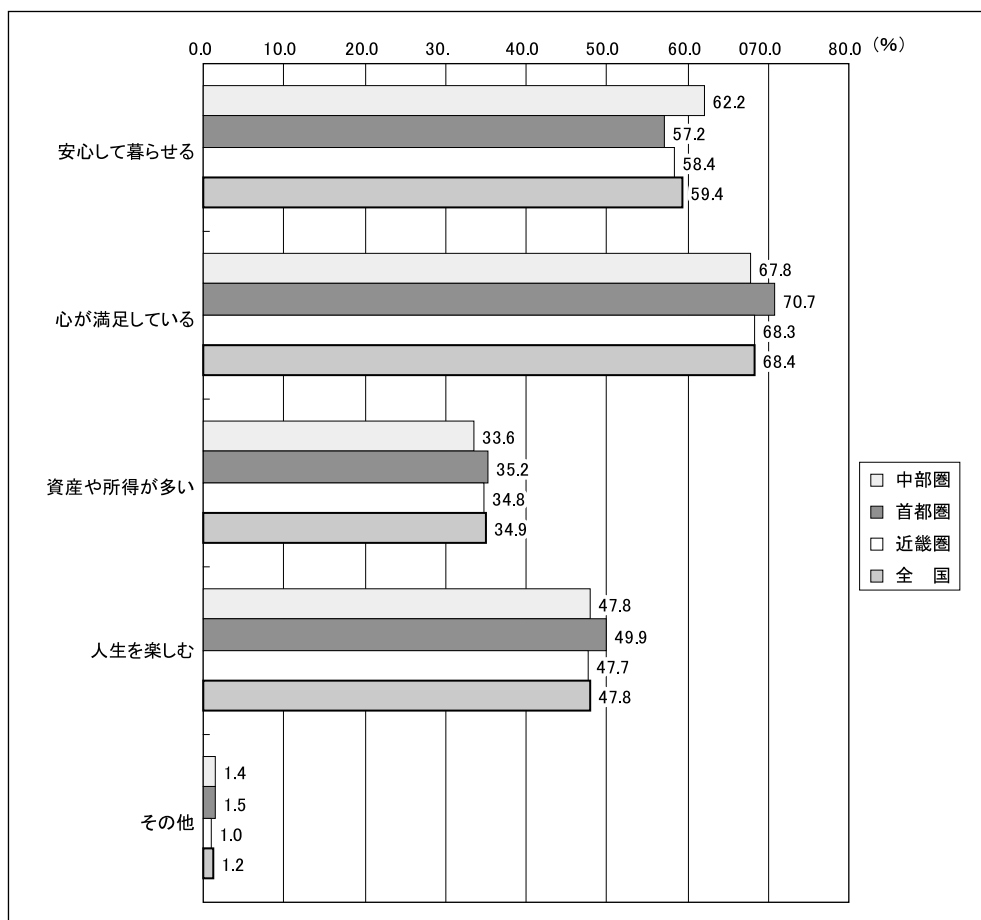


★ 「ゆとり」とは「精神的な心の余裕」

- 「精神的な心の余裕」が8割以上、「時間がある」、「旅行、音楽、鑑賞を楽しむ」、「家族、友人との語らい」、「資産や所得が多い」が約4割。
- 一方、「住居面積が大きい」と回答したのは約1割。
- 三大都市圏に大きな違いは見られない。

問13	あなたにとって「豊かさ」とは何ですか。(複数回答可)
-----	----------------------------

図16 「豊かさ」について



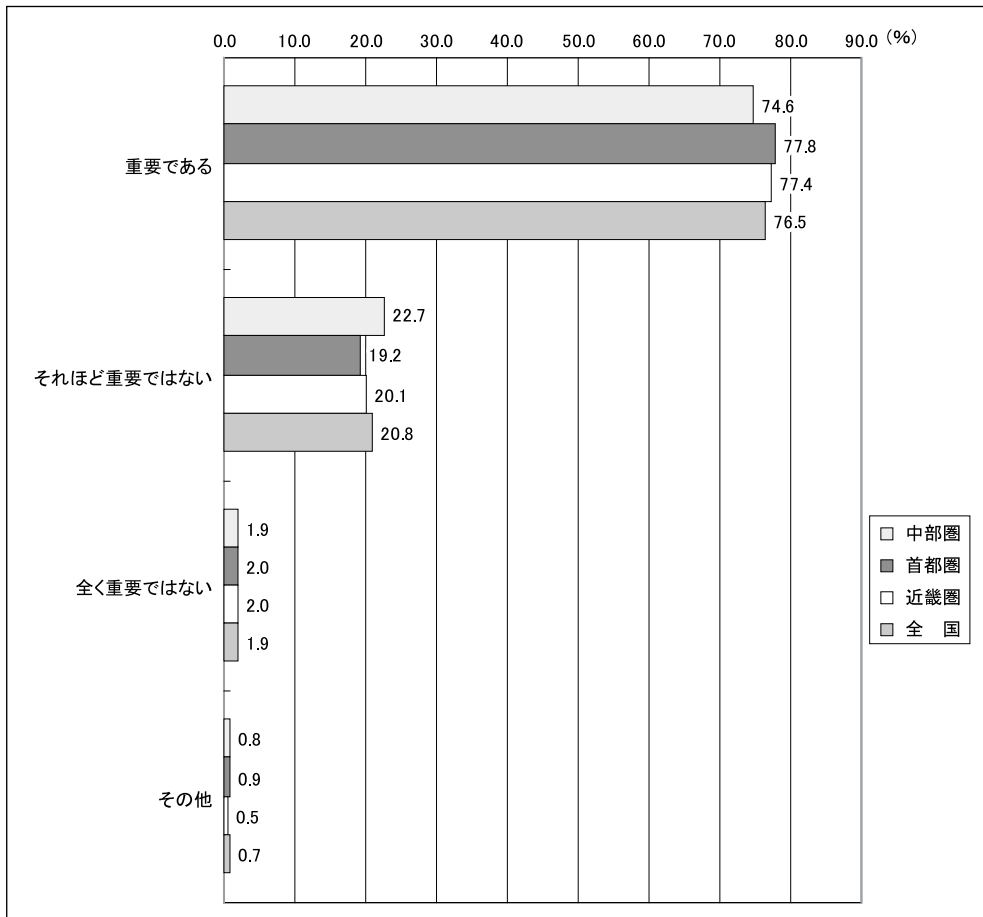
★ 「豊かさ」とは「心が満足している」

- 「心が満足している」が約7割、「安心して暮らせる」が約6割、「人生を楽しむ」が約5割
- 一方、「資産や所得が多い」と回答したのは約3割。
- 三大都市圏に大きな違いは見られない。

問14

日本の地域文化（祭り、行事など）についてどう思いますか。

図17 日本の地域文化について

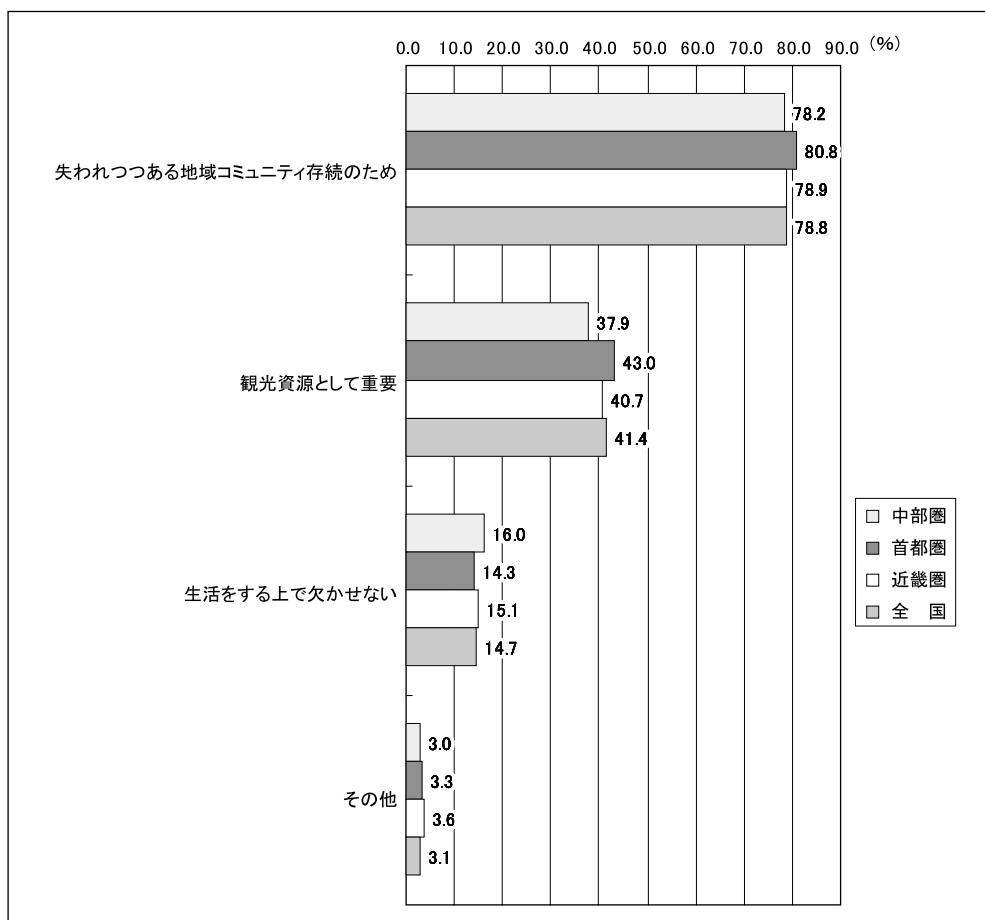


★ 日本の地域文化（祭り、行事など）は重要である

- 約8割が重要であると回答。三大都市圏では、首都圏で77.8%、近畿圏で77.4%、中部圏で74.6%とほぼ横並び。

問15 問14で「重要であると」回答した方のみ。どうして重要だと思いますか。(複数回答可)

図18 日本の地域文化について

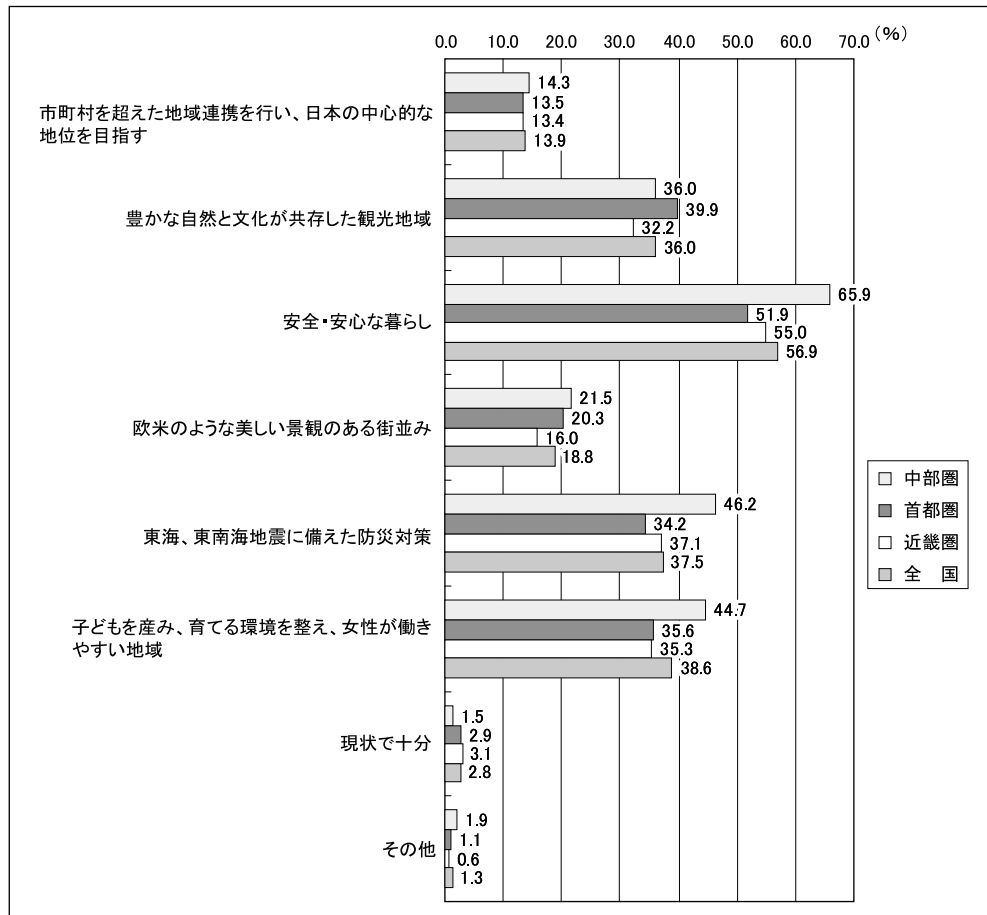


★ 日本の地域文化は「失われつつある地域コミュニティ存続のため」に重要

- 約8割の人が「失われつつある地域コミュニティ存続のため」に、日本の地域文化（祭り、行事など）が重要と回答。
- 4割弱の人が「観光資源として重要」と回答しており、その中で首都圏は43.0%と中部圏（37.9%）、近畿圏（40.7%）より高い割合となっている。

問16 中部圏は1人当たり住宅面積、1人当たり県民所得ともに、全国平均を上回っている唯一の圏域ですが、あと何を望みますか。(複数回答可)

図19 中部圏に望むもの



★ 中部圏にとって、安全・安心な暮らしが求められている

- 中部圏が日本の中心的な地位を目指すことについては、中部圏でも1割強の回答。
- 中部圏では、「安全・安心な暮らし」「地震に備えた防災対策」「女性が働きやすい」といった現実的なことを望んでいる。
- 首都圏の約4割が「豊かな自然と文化が共存した観光地域」を望んでおり、中部圏における観光産業のあり方が伺える。
- その他として、公共交通機関の充実、静岡・長野・金沢を含めた1つの地域とみなし連携するべき、との回答もあった。

アンケート調査を終えて

◆ 少子高齢化社会を迎える中、安全・安心、医療・福祉の充実が重要

2030年も中部圏の人は名古屋都市圏を中心に住みたいと願い、老後はできれば家庭菜園やガーデニングが出来る郊外一戸建てを希望している。

さらに、安全・安心な暮らし、医療・福祉の充実を求めている。

◆ 二地域居住は農山漁村の活性化に繋がる

中部圏ではライフスタイルの多様化と捉えるのではなく、中山間地などの交通インフラを充実させ、二地域居住を促し、農山漁村の消費・住宅需要増加を期待している。

◆ 外国人観光客の増加は嬉しいが、外国人居住者は増えて欲しくない

2030年中部圏においては、観光産業の活性化に繋がる観光客の増加は歓迎するが、一方居住者は増えて欲しくないと願っている。

この背景としては、現在中部圏にニューカマーと呼ばれる南米日系人を中心とする外国人住民が多数居住する都市が多いことに起因すると考えられる。

◆ 2030年も中部圏は元気である

2030年の中部圏は現状の製造業がそのまま活力を生み出し、相変わらず元気である。中部圏よりも他の都市圏の人がそのように感じている。

一方、自動車産業に代わる新産業が中部圏を引っ張ると考えるのは上記の半数となった。

◆ 地域文化に対する重要性の認識が求められる

中部圏には、祭りやからくり人形といった重要な伝統文化が存在しているにもかかわらず、首都圏・近畿圏と横並びか若干低い数字となった。

地域文化は長年の地域性、持続性からなる。それを形成しているという意識が中部圏住民には必要と思われる。

◆ 2030年中部圏が更なる活気を帯びるには、名古屋を国際都市とすること

名古屋を国際都市として発展させ、名古屋を中心に産学連携を活発化させる中部学園都市を形成すること（更に国際都市に相応しい外国語教育重視）が重要。

交通の要である、セントレアの第二滑走路・リニア新幹線といったインフラ整備の必要性の認識を高めていくことも重要と考えられる。